

おひな様 人形 花子さん 三

及 川 ふ み

おひな様

今年は出来るだけ簡単なおひな様を作つて見ました。

胴 第一圖

直徑一五センチの外輪と四センチの内輪の二重の圓を形どり、圓の兩端に、長さ四センチ幅二センチのはり代をつくりまします。

顔は直徑四センチの圓をつなげて二つ形り一つは前顔に、一つは後にいたします。此圓の兩端にも四センチ位の細長い柄をつけて胴の内部へはりつけまします。此顔を胴にはりつけまします時、顔が胴の中に少しはいりこむ様にいたします。このおひな様は一番簡單には模造紙で作ります。この時には紙がうすくてしつかりいたしませんから二枚はり合せていたします。

又費用の點で出来ますれば伊豫杵の千代紙を材料としていたしますと大層奇麗で御座います。

それから畫用紙にこの圓を謄寫するときに模様を考案して親王、内裏と別々の模様にして幼児にぬらせてつくるのも一つの方法であります。

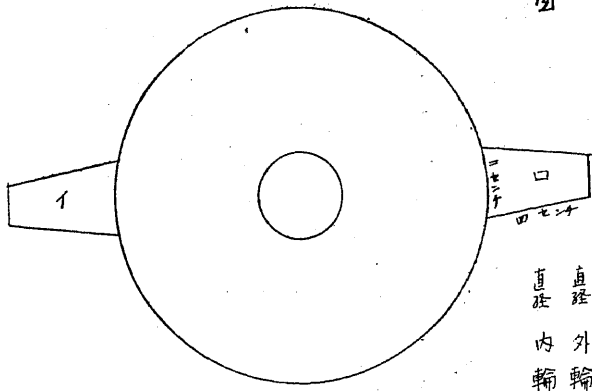
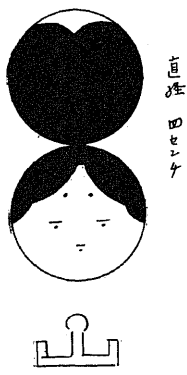
高臺

第二圖を畫用紙に謄寫して、それぐの色にぬらせて箱をこしらへまします。箱の上にかきこみをつくつておきまして、これへ胴のさしこみをはさんで箱の裏でのりをしてまします。

これも、石鹼の箱なごを利用して左右と前方を色紙なごで奇麗にはりまします面白くものが出来ましますが幼児の仕事としては少しめんごうすぎるかとも思はれます。

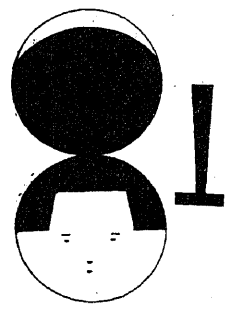
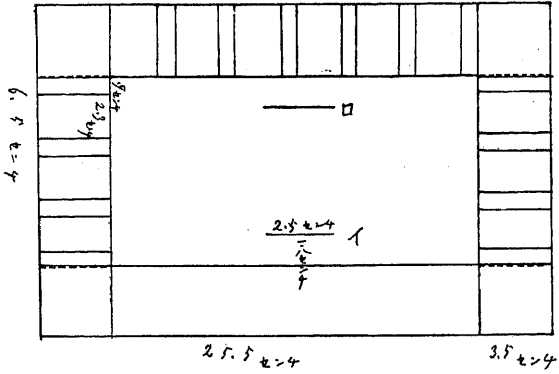
口繪のおひな様は伊豫杵の千代紙を裏うちいたしました石鹼の空箱を臺として作つたもので御座います。

カ一図



直径 一五センチ
内輪 四センチ

カ二図

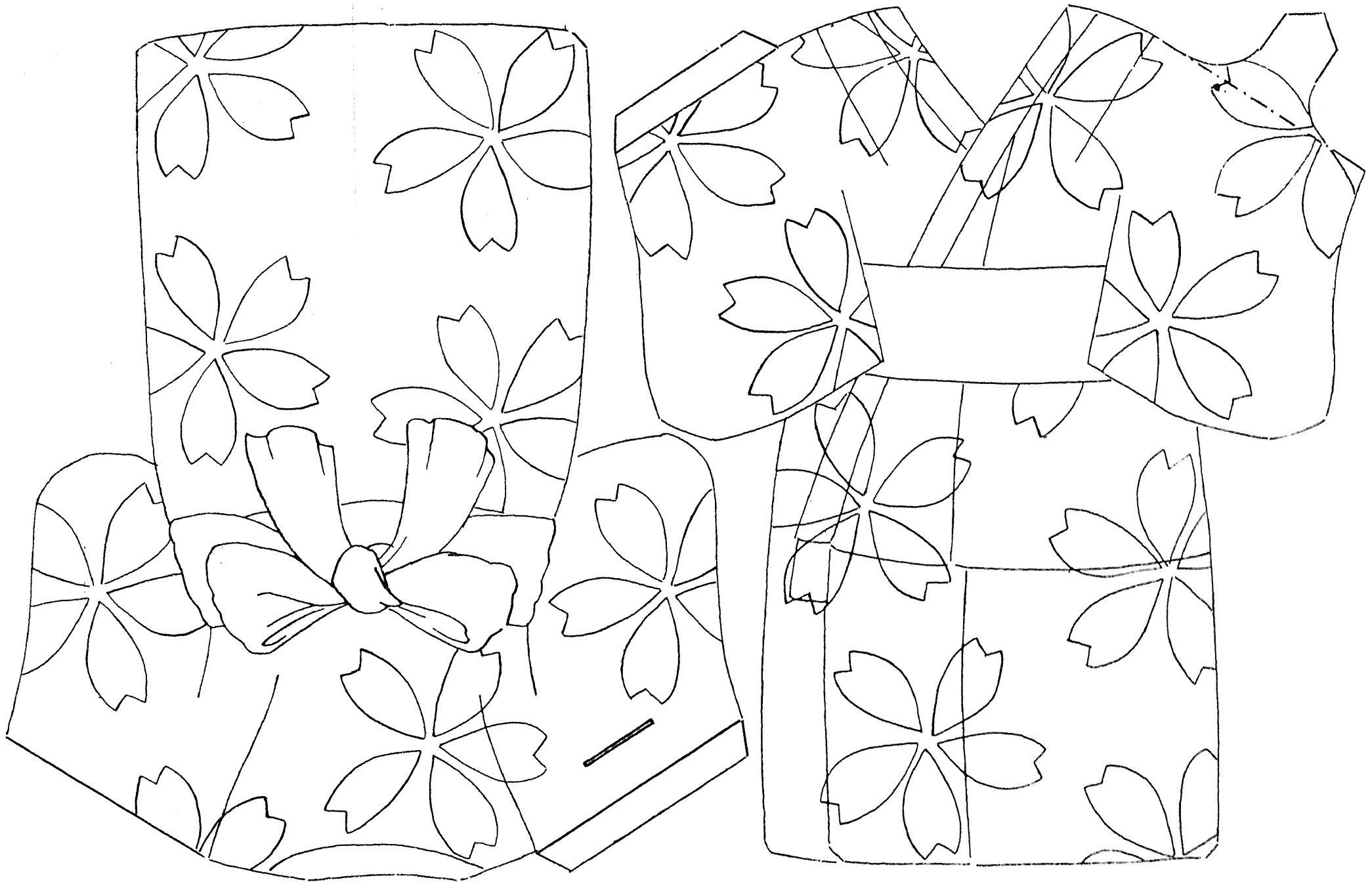


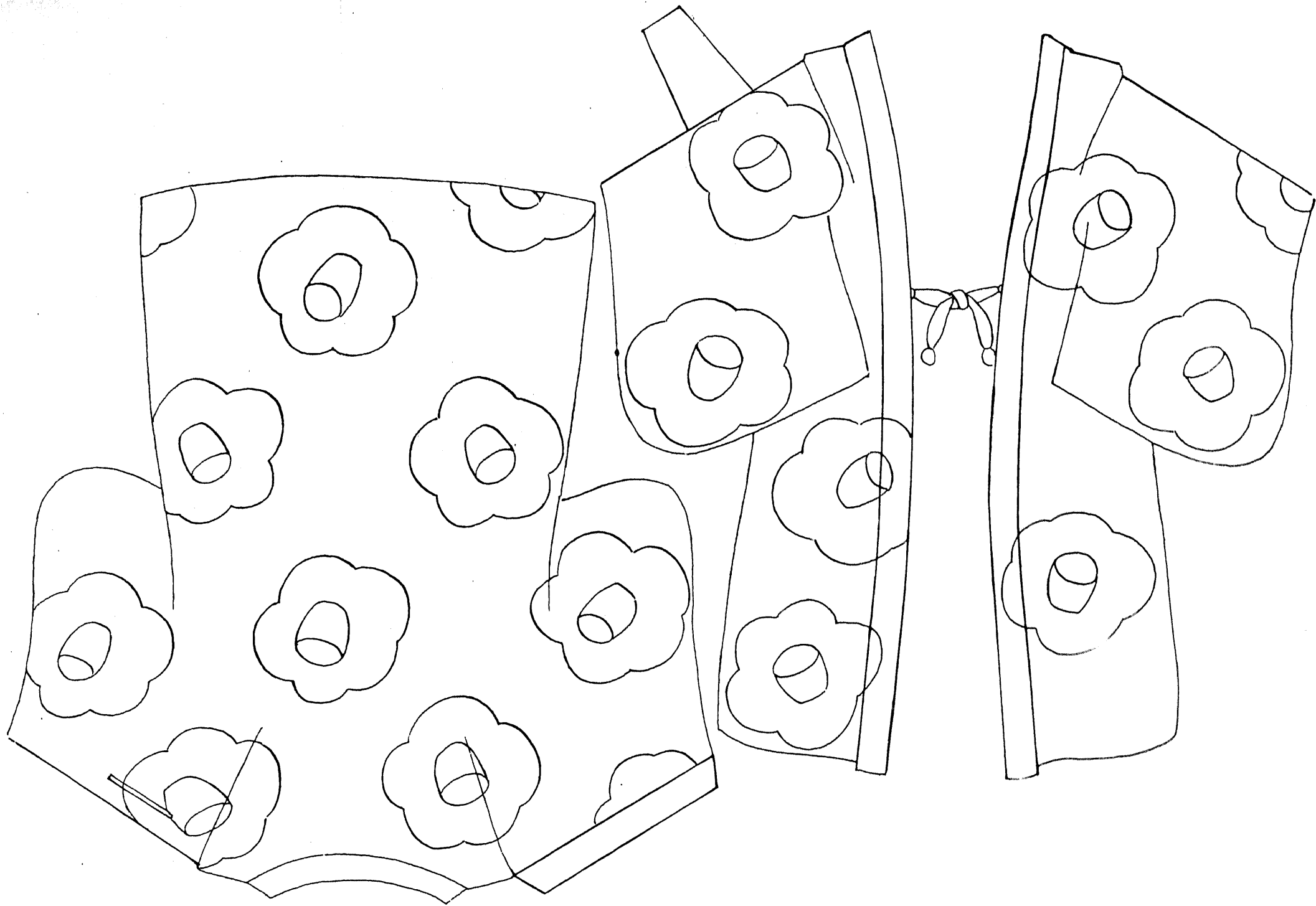
人形花子

さん

前月號の型により
まして、花子さんの
下着を着たからだだ
けが出来上りまし
た。

花子さんの表は、
髪の毛は墨で黒くぬ
りまして、リボンは
赤でも水色にでもぬ
ります。顔や手足は
輪廓だけうすく桃色
にぬり、下着は白の
まゝにのこしておき
ます。靴下はうす茶
色に、靴は赤くぬり
ます。花子さんの裏





は表と同様にぬります。

さてこん度は着物で御座いますが、先づはじめは和服を着せて見ます。

着物

着物は別圖(實物大)を謄寫して、櫻の花を赤くぬつてもよろしいでせうし、又地色を赤くして、花瓣のつけねのころを少しみざり色にぬつても美しいやうです。

帯の色は着物の色と配合のよい様に適當に無地にぬります。

前身の片方ののり代を後身にくつつけて、片方はさしこみにして着せたり、ぬがせたりいたします。

この着物の模様を謄寫版にすりますきに白の畫用紙よりも薄茶色か、薄鼠色のラシヤ紙にすりますき色をぬつてから大層美しくてはえまます。

羽織

椿の模様は花の心を黄色にして、花を赤くぬります。前身と後身のつけ方は着物と同様にいたします。

羽織の紐は黄色なき一例で御座いますが適當の無地の別

の紙に紐だけこしらへて(のり代五ミリ位兩方へ長くのばしておく)前身の内側へはりつけます。

この着物も羽織も謄寫してよくかかきましたなら型をきらない前に少しづつ丁寧にならせたいと思ひます。

前身の一部だけで幼児があきましたならそのきはそのまゝでおしまひにして、又次の仕事としてのこしておいていく度かづけてやつと一枚の着物にぬり上げるさいふ様にざりあつかふ方がいふ思ひます。

前身も後身もぬり上りました上、ていねいに輪廓に沿ふてきりおこさせます。

花子さんを入れておいたり、次々に出来る着物をしまつておきますために、ボールの空箱を家庭からもつてきてもらひますと大層都合がよろしう御座います。

着物の型や、模様を一通り謄寫して幼児にさせますと大きい組の幼児で御座いますとはじめの型に合せて形をきつたり、模様を自分でかきまして色々面白いものが出来ます。又時には千代紙で上等の着物や羽織をつくらせたり、又無地の着物や羽織をこしらへても面白い事と思ひます。

洋服なきは又來月號に申し上げる事にいたします。